学校の先生だけじゃない！教育系の仕事を一挙紹介

“教える”仕事、教育関連の仕事は実はバリエーション豊富。代表格は学校の先生だが、塾講師や民間スクールのインストラクターも“教える”仕事。また、最近は教育関連のNPOで活躍する人なども増えている。このように広がりを見せる教育業界の全体像と注目職種を紹介。「子どもが大好き」「人にものを教えるのが好き」「先生になるのが夢」という高校生は要注目だ。

この面を表にして教室に掲示してください　RECRUIT

仕事がわかる業界図鑑 vol.23

“教育業界”

取材・文／伊藤敬太郎　撮影／徳田貴久　イラスト／藤井昌子

小学校・中学校・高校

以下は国公私立の小・中・高校で児童・生徒を指導する先生や専門家。このほか、学校図書館で図書の収集・整理・管理、図書の利用指導などを行う司書教諭、栄養指導を行う栄養教諭もいる。特別支援学校では専門の資格を持つ特別支援学校教諭が活躍。

小学校教諭

小学校の先生。免許には二種（短期大学士）、一種（学士）、専修（大学院修士）の3種類がある。公立小学校の先生の場合、身分は地方公務員。国語、算数から図工、体育まですべての教科を指導できる。

中学校・高校教諭

中学校や高校の先生。中学社会、高校英語など科目ごとに免許があり、中学・高校の免許を同時に取得することも可能。中学校には二種・一種・専修免許があるが、高校に二種はない。

養護教諭

保健室の先生。小・中・高校などの保健室に常駐し、怪我や病気の応急処置をはじめとする児童・生徒の健康管理や保健教育などを担当する。養護教諭免許（二種・一種・専修）取得が必須。

スクールカウンセラー

小・中・高校で児童・生徒の心のケアを行う仕事。本人の相談に乗るほか、先生や保護者への助言も行う。資格は必須ではないが、臨床心理士取得者が多い。決まった日時だけ勤務するのが一般的。

部活動の監督・コーチ

中学校・高校の運動部では、教員がチームの監督を務めることも多いが、外部から監督・コーチを招くケースも。野球、サッカー、バレーボールなどの人気競技では全国的に有名な監督も多数。

教育事業の提案やサポート

教育系NPO

教育に関する様々な課題の解決など、日本の教育をよりよくするために、学校外で、または学校と協力して活動するNPO（特定非営利活動法人）は数多い。特別授業などの企画・運営、子どもたちや親へのサポート、行政への働きかけなど活動内容は様々。

NPO職員

NPOで事業の企画・運営などに携わる職員。活動主旨に賛同して働く人がほとんど。NPOの場合、ボランティアで協力する人も多いが、組織によっては有給の職員が多数いることもある。

公立校の指導・監督

教科指導・生活指導など

ケア・サポート

管轄

教育委員会

都道府県や市町村に置かれている行政委員会。公立学校の教員の人事や研修、学校運営の指導・監督などのほか、社会教育・生涯教育なども扱う。

社会教育主事

地域住民を対象とした教育講座や教育イベントに関する助言や企画・コーディネートを行う仕事。教育委員会事務局には必ず置かれている職種。

生涯教育講座などの提供

受験指導・学習指導

塾・予備校

中学校・高校・大学の受験指導や学校教育を補完する教科指導を行う。苦手科目の強化や効率的な受験対策を求める児童・生徒・保護者のニーズに対応した教育サービスを提供している。

塾・予備校講師

塾・予備校で児童・生徒に教科指導をする講師。教員免許は不要。個性派の人気講師も多い。

保育・幼児教育の提供

語学・パソコン・スポーツなどの指導

文部科学省

日本の教育行政や文化・科学技術・スポーツの振興を司る中央省庁。調査・研究・政策立案など役割は幅広く、高校生に身近なところでは、学習指導要領の改訂、教科書の検定なども行っている。

文部科学省職員

国家公務員試験に合格し、文部科学省に採用されると職員に。日本の教育の舵取りをする重要な仕事。

幼稚園を管轄（保育園は厚生労働省）

幼稚園・保育園

法律上、幼稚園は教育、保育園は福祉に分類される。ただし、現在はそれぞれの現場で幼児教育・保育両方の観点が必要とされており、幼稚園教諭・保育士ともに幅広い専門性が求められている。

幼稚園教諭

免許は幼児教育系の大学や短大、専門学校などで取得できる。併せて保育士を取得する人も多い。

高等教育の提供

専門教育の提供

スクール・教室

民間や自治体が運営するスクールや教室。語学、パソコンなどの実用系、書道、陶芸などの文化・趣味系、水泳などのスポーツ系と様々なスクール・教室があり、対象も子どもから大人まで幅広い。

各種インストラクター

スクール、教室で生徒の指導をする。各分野の業界団体などが指導者資格を設けていることが多い。

管轄

最新の業界事情

教員に高い専門性が求められている

キャリア教育の導入、不登校やいじめへの対応など様々な課題がクローズアップされる中で、今、学校教育の現場は大きく変わりつつある。教育関連のNPOやスクールカウンセラーをはじめとする専門家が学校教育にかかわるようになり、地域との連携も進行。学校外の専門家の役割が拡大している。一方、小学校の教員に関しては、都市部での採用ニーズが高く、この状況は今後7～8年程度続きそう。ただし、現状では採用倍率の地域間格差も大きいので注意。また、組織運営や教科指導に関する高い専門性も求められており、2008年にはこうしたニーズに応えて教職大学院が登場。教員養成6年制導入をめぐる議論の行方も注目されるところだ。

大学・短大

大学・短大の教員の場合、教員免許は不要。肩書きは教授、准教授、講師などがあり、通常、助教・助手→講師→准教授→教授と昇進していく。決まった日時にだけ勤務する非常勤・客員教員も多い。

大学教授・准教授

大学・短大などに所属し、専門分野の研究活動や論文執筆、学生への講義や論文指導などを行う仕事。

専門学校

専門課程を置いている専修学校。医療、福祉、ビジネス、建築、デザイン、CG、ゲーム、ITなど様々な分野の専門学校があり、現場経験豊富なプロ、有資格者などが教員・講師として指導している。

日本語教師

国内外の日本語学校などで外国人に日本語を教える教師。必須ではないが複数の資格があるほか、日本語教育を学べる大学・大学院も増えている。

注目されるNPOカタリバで高校との交渉役を務める

高校生が、親でも教師でもない「ナナメの関係」のお兄さん、お姉さんと語り合うことで、将来やキャリアについて考えるきっかけをつかむ——。それが、NPOカタリバが企画・運営する「カタリ場」だ。竹野さんは渉外担当。カタリ場は、高校の現場で、学校ごとにきめ細かくカスタマイズしたプログラムで開催されるため、高校側とのやりとりが重要な意味を持つ。

「担当の先生から、学校が抱えている悩み、カタリ場に求めているもの、開催したい時期などをヒアリングし、じっくり話し合います。ここで先生との協力関係を築き上げることも非常に大切なんです。その上でゴールイメージを固めて運営部に伝え、ニーズに応えるプログラムを作ります。その進行管理なども私の担当です」

カタリ場が注目されている今では高校から依頼が来ることが多いが、立ち上げ当初は、高校に働きかけても門前払いされる日々が続いた。それでもあきらめなかったのは、代表の今村さんと2人で「このアイデアは絶対にニーズがある」と確信していたから。だからこそ、「先輩たちと語り合う中で高校生の表情が変わっていくのを見るのが何よりの喜び」だと竹野さんは笑顔を見せる。

竹野さんの「1日」

出社は10:00。掃除や朝礼の後、10:30から業務がスタート。日中は、高校の先生への電話、資料作りなどのデスクワークや打ち合わせが中心。夕方17:00以降は、教育関係のシンポジウムや先生との飲み会などに参加。毎日のように人と会い、交流を広げている。

なるには？

既存のNPOで働きたい場合は、職員募集の有無を確認して応募する。ただし、募集があるとは限らないので、主旨に賛同して協力したいという気持ちがあれば、ボランティアから始める道も。また、社会に貢献できる事業案があれば、自らNPOを立ち上げることも十分可能。その場合、企業などで社会人経験を積んでからでも遅くはない。

NPO職員

NPO staff

職種 PICK UP!

特定非営利活動法人 NPOカタリバ 職員
竹野優花さん（33歳）

明治大学文学部卒業。2001年に現・代表理事の今村久美氏とともに任意団体カタリバを設立（2006年NPO法人化）。以来、高校企画事業部長として主に高校渉外を担当。